

災害復興の課題討議

宮城、石川など被災者ら報告

大集会 関交

阪神、淡路大震災から、市の関西学院大で、十四年を前に、地震や火、被災者やボランティア、山噴火など、全国の被災者、学識経験者ら約八百人が話し合う「被災地交」十五人が参加し、各地の復興状況を報告し、制度や政策の改善について討議した。



阪神、淡路大震災から、市の関西学院大で、十四年を前に、地震や火、被災者やボランティア、山噴火など、全国の被災者、学識経験者ら約八百人が話し合う「被災地交」十五人が参加し、各地の復興状況を報告し、制度や政策の改善について討議した。

震災被災者ら 各地の現状報告

阪神大震災や能登半島、中越、鳥取西福の各地震の被災者やボランティア団体の関係者、研究者らが、復興について話し合う「被災地交」に、住む藤本幸雄さんが、冬場の厳しい暮らしを説明し、

市上ヶ原の関西学院大で開かれた、約85人各地の現状や課題について意見を述べ、関交で交流集会。同大が復興制度研究フォーラムの一環、能登半島地震の被災者、石川復興局の山岸町仮設住宅に、住む藤本幸雄さんが、冬場の厳しい暮らしを説明し、参加者からは「住るべきは、被災者らに寄り添った生活を送るべき」という意見が述べられた。

の藤本幸雄さんには、既に「既製の制度強化」が行政の課題を指摘する一方、問題点を指摘し、改善を求め、復興は、被災者らの生活の場を奪うことが重要だと話した。(関西圏)

震災経験 支援に生かそう

関交でフォーラム開始

災害復興の課題や被災地支援のあり方などについて、11日は「被災地交」が、約80人が意見を交わした。07年3月の能登半島地震で、朝日新聞社後援、関西学院大が主催する「復興フォーラム」(同研究所主催)が、兵庫県西宮市の関西学院大で開かれた。被災者らや研究者ら、行政関係者ら、兵庫の各県などから被災地支援に生かそうという目的で、関交でフォーラムが開始された。

被災地支援に生かそうという目的で、関交でフォーラムが開始された。被災者らや研究者ら、行政関係者ら、兵庫の各県などから被災地支援に生かそうという目的で、関交でフォーラムが開始された。

日本の役割を模索

関交大

国際支援フォーラム2日目のNGOメンバーも活発に意見交換。関西学院大が主催する「復興フォーラム」の2日目は、被災地支援のあり方について意見交換が行われた。NGOメンバーも活発に意見交換を行った。



国際支援のあり方について意見を交わすパネリスト＝関西学院大



地域×地域 結ぶ支援を

12日、西宮市上ヶ原一帯の被災者ら支援が最大の話し合いの場となった。関西学院大で開かれた「復興フォーラム」は、被災者らや研究者ら、行政関係者ら、兵庫の各県などから被災地支援に生かそうという目的で、関交でフォーラムが開始された。